



DOCOMO TEAM DANDELION RACING Team Release

Official TEST Report 2012/11/19～20 FUJI 3rd Official test

安定した天候の中、2日間の公式テストが、富士スピードウェイにて行われた。

昨日まで開催された富士スプリントカップとは打って変り、ここから2013年度が始動、各チームルーキーテストも兼ねて精力的にテスト走行を行った。

DOCOMO TEAM DANDELION RACINGはエース伊沢選手をそのままに、ルーキーテストとしてフランス人ジャン・カール・ベルネ選手を起用し、2012年の総括と2013年、さらにその先へ向けてのテストプログラムを精力的にこなした。

公式テスト1日目、伊沢選手は、午前中の走行で空力関連、足回り関連、新スペックタイヤテストを行い、トップタイムをマーク。午後はHONDA開発車両による次世代技術開発テストと、様々なテストプログラムをこなし有益なデータを取得した。ベルネ選手は、初フォーミュラニッポン、初富士スピードウェイ走行ということで、まずは車両特性とサーキットの習熟を主眼に、午前午後と多くの周回をこなした。

公式テスト2日目は快晴のなか、伊沢選手は40号車と41号車の比較テストやブレーキ、エンジン、車両バランス関連の、シーズン中にはなかなか出来ない様々なテストメニューを精力的に消化した。ベルネ選手は、高速コーナーに重点を置き習熟に努め、初物尽くしのアタックラップながら、24秒台をマークし、チームとして非常に有意義な今年度最後のテストを終えた。

40：伊沢拓也 選手 (19日 AM1位 PM HONDA 開発車両テスト、20日 AM4位 PM5位、総合5位)

シーズン中に出来ない様々なトライをすることができ、得手不得手双方について発見も多く、有効なデータを得ることができました。アタックラップでは、もう少しタイムを縮めたかったですね。

2012年シーズンの結果と合わせて、今回テスト内容をよく解析し、2013シーズンへの準備を整えます。

41：ジャン・カール・ベルネ 選手 (19日 AM16位 PM16位、20日 AM16位 PM13位、総合14位)

まず、今回このような素晴らしいチャンスをいただけたことに感謝しています。

同郷のデュバル選手には、フォーミュラニッポンがいかに難しいか、チームの素晴らしさなども、色々聞いていましたが、初めは車の速さに少々戸惑いました。富士スピードウェイも、高速セクションとテクニカルセクション両方が存在し、難しいコースでした。

チャンピオンチームですので、言い訳なく私の実力が試されることのプレッシャーもありましたが、まずは習熟に努め、2日目にはいくつかのポイントをつかめたかと感じています。2013年を、このステージで戦うことが出来ればうれしいです。